

川のニュースレター

2026年

6月



サクシュ琴似川でウォーキングツアーを開催しました

こんにちは！札幌市下水道河川局河川事業課です。このたびは「サクシュ琴似川 川めぐりウォーキングツアー」へご応募いただきありがとうございました。今回、多くの方々にご応募をいただきましたが、安全管理上の定員の関係から、皆様全員にご参加いただくことが叶いませんでした。

そこで、当日ご参加いただけなかった方々にも、イベントの様子をお伝えしたい！サクシュ琴似川の魅力を知っていただきたい！という思いから「川のニュースレター」を作成しました。このニュースレターが、皆様が川に親しむきっかけとなれば幸いです。

ウォーキングツアーのテーマ

「川を通じて見るまちの歴史」

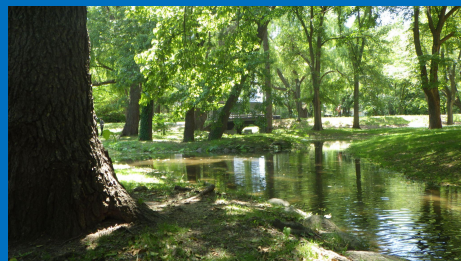
皆様は、「サクシュ琴似川」の成り立ちをご存じでしょうか？札幌の中心部はサッポロ川（現在の豊平川）によって作られました。古いサッポロ川は網の目のように流れ、長い年月をかけて流れを変え、原野を開きました。その後、伏

流水となって地面の下に潜りましたが、泉となって地表に湧き出て、小さな川の流れを作っていました。その川の 하나가、「サクシュ琴似川」です。

今回のツアーでは、昔の川の姿の痕跡や、川とまちの歴史につ

いてめぐって行きました。普段は何気なく眺めている景色も、まちの歴史や川の成り立ちなどの知識が加わると違う風景に見えてきます。

それでは、今回のツアーの**見どころ**を、裏面ページにて少しだけご紹介させていただきます！



開催日：6月20日(土)

ガイド：杉浦 正人 氏

札幌建築鑑賞会代表。まちや建物を巡りながら、その地域の歴史や物語を読み解くまち歩きの人です。

ほんの一部ですが…「サクシュ琴似川」の

見どころを紹介します。

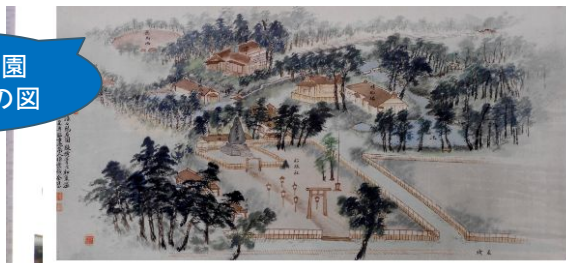
サクシュ琴似川 いまむかし

実は、サクシュ琴似川はかつて、都市化の進展に伴い枯渇し、北海道大学構内を流れていた水路も一部埋め立てられてしまった過去があります。そんな中、北海道大学では、埋め立てられた河川を再生する「サクシュ琴似川再生事業」が実施され、これを受けて札幌市と北海道大学が連携し、2004年に現在のサクシュ琴似川の姿にて、約半世紀ぶりに復活しました。現在の川は「藻岩浄水場」の放流水を水源としており、札幌医科大学や、北海道立近代美術館、北大植物園などの施設に隣接する道路の下を通して、北海道大学構内まで運ばれています。北海道大学構内では、かつての自然堤防や、近自然工法的に復元した河道などを見ることができます。

偕楽園緑地

日本最初の都市型公園でもある「偕楽園緑地」は、かつてアイヌ語で「ヌブ・サム・MEM（野のかたわらの湧水泉）」と呼ばれ、サクシュ琴似川が流れていました。明治の初めには、北海道内初となるサケ・マス孵化場が作られるほか、「井頭龍神（※現在は撤去されています。）」が祀られるなど、川とまちづくりが深く関わった場所となっています。

昔の偕楽園
緑地周辺の図



さあ、マップを片手にウォーキング！

「サクシュ琴似川 川めぐりマップ」を片手に川沿いを歩けば、今回のツアーを追体験できます。また、中島公園周辺を流れる川を舞台にした「創成川・鴨々川 川めぐりマップ」も配布しております。マップを携えて、ぜひご自身でも出かけてみてください。

※紙のマップは、市政刊行物コーナー（札幌市役所2階）や下水道河川局庁舎（豊平区豊平6条3丁目）などで配布しています。在庫状況は個別にお問い合わせください。

※ホームページにもマップを掲載しています。



<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/kasen/menu04-05.html>

